

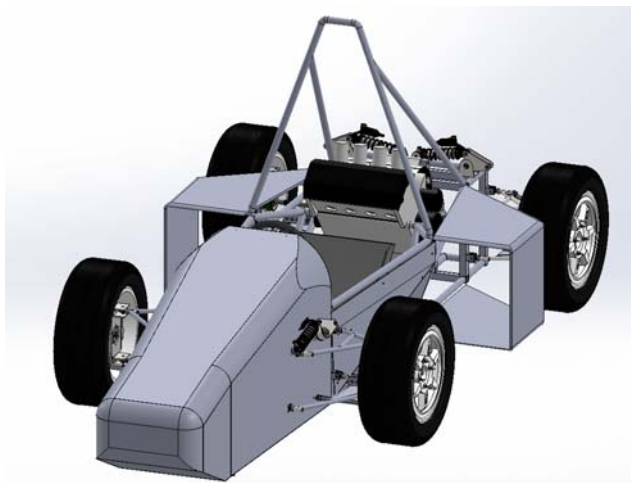


5年目の挑戦

摂南大学全学フォーミュラプロジェクト

S-Racing

<http://www.setsunan.ac.jp/~s-racing/>



今回の総合結果・部門賞

●総合57位

Profile チーム紹介・今までの活動

2010年大会から参戦し、本大会で5回目の参戦となりました。昨年度までは車検通過が叶わず悔しい思いをしてきました。動的全種目完走を目標に日々の活動を行ってきました。今年度は目標を達成することは叶いませんでしたが、5年目の挑戦にして初めて動的種目へ進むことができました。

Team-member チームメンバー

馬場 大河 (CP)

堀江 昌朗 (FA)、桑田 寿基 (FA)、里 将多、
徳増 佑太、高橋 颯志、有吉 俊二、飯尾 将貴、
北木 裕梧、黄 晓羽、竹内 大、天神林 佑、
水野 修平、安田 雄太、大平 悠矢、奥田 尚樹、
庄田 聖、竹原 伸輔、塚本 佑汰

Sponsors スポンサーリスト

スズキ、NTN、ソリッドワークス・ジャパン、レイズ、
F.C.C.、VSN、摂南大学後援会、機撰会、
深井製作所、小松行永商店、オーエスジー、日信工業

Presentation プレゼンテーション

マシン名: SR-KIZUNA05

私達、摂南大学全学フォーミュラプロジェクトでは「加工のしやすさ、整備性の改善」をコンセプトにSR-KIZUNA04の設計、製作を行いました。基本性能を向上させることはもちろんのことでしたが、例年大会直前まで加工などに追われていたため、それをなくし、少しでも早期にマシンを完成させたいという思いがあったからです。

マシンの特徴としては、車の基本である「走る」、「曲がる」、「止まる」を確実にできるようなマシンをめざし、それぞれの部品を見直しました。具体的には「走る」に関しては電装のメインハーネスを改良したことにより、エンジンの始動性を向上させ、「曲がる」に関してはホイールベースとステアリングの相関関係を見直し、「止まる」に関してはブレーキマスターシリンダーとブレーキキャリパーの再度見直しを行うことによって確実にそれらの行為が行ばえるようなマシンとなりました。

今年度は上回生が少なく、不安な面が多かったです。しかし全メンバーの頑張りがあり、100%とは言いきれないですが、大会でマシンを走行させることができました。設計の遅れから、満足に走行練習を行うことができなかったため、日程管理をもっと徹底的に行わなければならないと感じました。

第13回大会では全種目完走できるよう活動を進めて参ります。

Participation report 参戦レポート

今年度は総合20位と動的種目の全種目完走を目標に大会に望みました。しかし設計や製作の遅れから、思ったように作業が進まず、さらに大会5日前にラジエターが破損してしまうなどのトラブルが起きてしまいました。

大会の静的審査ではデザイン審査、プレゼンテーション審査の結果が思ったように伸びなかった反面、コストレポートではまずまずの成績を残すことができました。しかしマシン製作に時間を取られてしまい静的資料の準備が不十分だったので、来年度は資料作りにも力を入れていかなければと思います。

2日目の午前から車検を行いました。修正箇所が多く、ブレーキテストに合格したのが3日目の午後となってしまい、アクセルレクションとスキッドパッドには出走することができませんでした。しかしチームとして初めてオートクロスに出ることができました。ドライバーの練習が満足に行えなかったため思ったようにタイムを伸ばすことができず、トップとの差が133%となってしまったため、エンデュランスに出走することはできませんでしたが、初めて動的審査に出場できたことはチームにとって素晴らしい経験となりました。

来年度は今年度のダメだった点を克服し、より長所を伸ばしていくような設計を行い、動的種目の全種目完走を目標に1年間活動していこうと思います。

最後になりましたが、1年間自分達を応援し、支えてくださったスポンサー様、自動車技術会の皆様、学校関係者の皆様、そしてチームのみんな、本当にありがとうございました。